

## 10 大学公開と広報

### 10.1 公開講座

#### 1 公開講座の実施状況

本学では、一般公開講座、現職教育講座、教員研修センター共催講座の3種類の公開講座を実施している。平成14年度においては、一般公開講座27、現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）27の合計54講座を実施した。

一般公開講座については、スポーツ教室11、芸術教室5、園芸教室1、健康・保健教室1、教養講座9の計27講座で、941人の募集に対して935人の応募があり、その内782人が各講座を受講し、710人に対して修了証書を授与した。現職教育講座（教員研修センター共催講座1件を含む）については、27講座1,263人の募集を行い、2,011人から応募があり、その内1,790人が受講し、1,723人に対して修了証書を授与した。

#### 2 公開講座委員会の活動

公開講座委員会では、平成12年度以降、国立大学の公開講座実施経費が大幅に削減されている状況を踏まえ、平成14年度の全体計画の立案に当たり、同じ講座の実施は原則として年1回とする、毎年実施している講座については、最近2回の受講者が募集人員の8割に達していない場合は、収支の均衡がとれている講座を除き、隔年実施とするか又は今後数年の間実施を見合わせる、公開講座の講師は本学教官が担当する、1講座当たりの実技指導員や補助員を必要最少限とする、小・中学生を対象とする体験学習の講座開設を検討することなどに留意し、厳しい財政状況等に対応した。

#### 3 自己評価と課題

本学の開学理念として、大学公開は、教育、研究と並ぶ三本柱であり、その中でも公開講座は、直接的な社会貢献として重要な位置付けを持っており、開設講座数や受講者数において他の国立大学の追従を許さない実績を挙げてきた。周辺地域及びそれ以外の地域住民から、講座の内容や開設時期等についての問い合わせが多数あり、さらに、近隣市町村教育委員会等から共催による講座開設の要望及び市町村独自の講座への本学教官の協力要請も多い。これらのことは、本学の公開講座活動が地域社会に定着し、同時に高い評価を得てきたことを表している。

現在の一般公開講座は、スポーツ・芸術等の継続されている講座に人気があり、また、公開講座委員会の要請による現代的課題についての講座も、開催数の増加と内容の充実が図られてきた。今後は、さらに受講者の要望を踏まえて、内容的に広範で、より多様なレベルの講座を開設するため、これまで講座の開設が困難であった学群・学類においても新講座開設を実現する必要がある。また、民間のカルチャーセンター等と競合しない“筑波大学の公開講座”の特色を強く打ち出すとともに、講座内容、募集方法及び開催時期の見直し等により、存在意義や価値を高めていくことが重要である。

本学の人材と充実した施設を活用して広く社会に貢献するために、公開講座の一層の充実を図る必要がある。そのためにも、生涯学習の一翼を担う公開講座に対する認識を喚起し、公開講座担当教員に対する教育業績評価を積極的に行う方向で検討することが望まれる。

### 10.2 大学会館事業

大学会館は、「本学の職員及び学生の教養を深め、相互の親密なる交流の場として機能するとともに、内外の大学その他の研究機関及び地域社会等との交流に供すること等により、学問の進展及び地域文化の向上に寄与すること」を目的として設置されており、この目的を達成するため、次の業務を実施し、会館施設を学会等の利用に供した。

(1) 大学会館主催事業（音楽関係3回、映画関係5回）を実施した。

(2) ホール、講堂、会議室、展示場等は、大学行事（式典等）、大学主催・共催行事（国際会議等）、学会、シン

ポジウム、職員のレクリエーション（作品展示会等）及び学生の課外教育活動（発表会、作品展示会等）に利用された。

(3) 宿泊室については、本学招へい講師、国際会議及び学会等の参加者に利用された。

現時点において、開学時の大学会館の使命は十分達成できたと考えられる。一方、今後の課題としては、以下のようなものがあげられる。学園都市建設から30年経った今日、大学周辺は大幅に都市化され文化施設もほぼ整備された状況となってきたことから、今後、大学の法人化が指向されていくなかで大学会館主催事業等のあり方を再検討していく必要がある。また、大学会館の設備備品等は開館初期に設置したものが多く、20年以上経過しているものもあり、劣化が著しい。これらを計画的に更新・改修し、利用者の要望にも応えていく必要がある。同様に宿泊室の設備備品等についても老朽化が顕著であり、年次計画による改修整備が必要である。

### 10.3 広報活動

#### 1 広報活動の現状

##### 【基本方針】

情報化社会と呼ばれている今日、本学の実態を正しく社会に伝達するため、学内外の広報紙（誌）や報道機関を通じ、本学の教育・研究活動を積極的に紹介する。また、先導的な大学改革を実践している本学の経験と成果についても紹介し、我が国の大学が目指している諸改革に貢献する。

##### 【体制】

広報・公開室は、企画調査室との関係のもと、学内外に対する広報活動の企画立案、広報刊行物に関する連絡調整及び報道機関との連絡等を行う。

##### 【実施状況】

(1) 「筑波大学概要」・「同ポケット版」（年1回発行）、「筑波大学リーフレット」（年1回発行）、「筑波大学学報」（毎月1回発行、号外3回）、「速報つくば」（年間23回、号外3回、特集号2回）、「筑波大学新聞」（年8回発行）、などの刊行物を発行し、「大学公式ホームページ」の管理運営、大学見学の受入れ（30件、1,500人）及び報道機関等への情報提供を通じ、学内外への広報活動を積極的に行った。

(2) ホームページでは、内容を充実しユーザーの利便性の向上を図る観点から次の事項を実施した。

卒業式、入学式及び大学説明会の様子の中継及びビデオ配信し、また、「筑波大学研究成果企業化推進交流会」の様子も、試行的に2ヵ月間配信した。

学内諸行事を、タイムリーに紹介するための写真を掲載した。

入学希望者が関心を持っている学問領域・分野等をキーワードに、受験に必要な情報を検索できるシステムを構築した。

ZoomView<sup>®</sup> 航空写真を組み合わせて、キャンパスマップのリニューアルを図った。

iモード対応版を掲載した。

Flash<sup>®</sup>（動画）を用いた本学へのアクセスマップを作成した。

iPIX<sup>®</sup>を用いた学内4個所のパノラマ画像を掲載した。

トップページ各コンテンツにポップアップメニュー（次階層のコンテンツ表示）を付加した。

「平成13年度版事業報告書」を掲載し、本学の統計資料等を公開した。

(3) 例年どおり本年も学園祭に参加し、「筑波大学広報コーナー」を設け、積極的な広報活動を展開した。

筑波大学紹介ビデオの上映。

パソコンを設置しての本学ホームページの自由閲覧。

各学群・学類案内等各種刊行物の展示及び配布。

アドミッションセンター教官による入試相談コーナー。

筑波大学新聞編集協力学生による「在学生と近隣の高校生等との対談コーナー」を実施した。